

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2471300422		
法人名	社会福祉法人 グリーンセンター福祉会		
事業所名	グループホーム グリーントピア名張		
所在地	三重県名張市東田原2745番地		
自己評価作成日	平成27年 7月 24日	評価結果市町提出日	平成27年10月9日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kihon=true&JigvoCd=2471300422-00&PrefCd=24&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 27 年 8 月 24 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人の理念としての「笑顔・あいさつ・言葉づかい」を心がけ、また、グループホーム独自の理念の「ゆっくり」「一緒に」「楽しく」その人らしく」を大切に、入居者の訴えや思いを十分に聞き、一人ひとりのペースに合わせた支援をする事で、安心した生活が継続できるように努めている。また、周囲を緑に囲まれ、広々とした環境の中、畑で収穫した野菜などを使ったおやつ作りや庭での昼食会などを通して季節を感じてもらえるように努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

駅から近くて利便性の良い、緑に囲まれた広い敷地内にある事業所で、1階にグループホーム・地域交流ホール・会議室、二階にユニット型の特養がある。隣接する本館では特養とショートステイ・ケアハウス・デイサービス・介護支援事業所を運営している。地域行事に参加したり、交流ホームでのイベント等で地域の方々やボランティア、保育園児との交流がある。医療機関や協力医、デイサービスと兼務の看護師、職員との連携も取れている。家族等との連絡を重視し、信頼関係づくりに努力にしており、利用者が安心して居心地良く生活出来る事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念「“ゆっくり”“一緒に”“楽しく”その人らしく」を職員が常に目に入る位置に掲示し、実際の生活が理念の実践に繋がるよう心掛けている。	事業所理念を食堂兼居間の共有スペースとスタッフルームに掲示し、その人に合わせ、待てる気持ちを大切に職員間で常に理念を共有し、実践に向け取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	市民センター祭りへの参加やボランティアの慰問、地域保育所との交流会などで地域住民や子供達との交流を図っている。	市民センター祭、美旗地区七夕会、クリスマス会に参加している。また、事業所の地域交流ホールを利用し、同一法人利用者入居者と一緒にボランティアや民生委員、保育園児、地域住民と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実習生や職場体験、ボランティアの受け入れや施設見学などを通じて認知症への理解を得る機会としている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議により、多面的で客観的な視点からの意見を聞き、情報交換の場としてアドバイスなどをもらい、職員全員で議事録を回覧して情報を共有しサービスの質の向上に繋げている。	2ヶ月に一回、高齢障害支援室長、家族代表、民生委員、地域包括支援センター長、特養施設長、多数の関係者の参加を得て特養と合同開催し、現状報告や意見交換を行っている。職員間で運営推進会議の情報を共有し支援の質の向上に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議では、事業所の様子を伝え行政からのアドバイスをもらっている。市担当者とのメールのやり取りや介護相談員の来所などで協力関係を築いている。	運営推進会議開催時や書類の認定更新時に市担当者から直接アドバイスを受取り、介護相談員の訪問等で連携を取っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を中心に指定基準を確認し、常に意識しながら介護するよう努めている。玄関の施錠は職員が手薄になる夜間、入浴時などに限り行っている。	法人で年に1回、身体拘束についての研修を実施している。身体拘束廃止委員会で具体的な事例について情報交換を行い、その内容を事業所職員に回覧し、常に身体拘束をしないケアをしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	二ヶ月に一度の委員会の中で情報交換や虐待について再確認し、ミーティングや引き継ぎで職員全員の意識統一に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在該当者はいないが、研修で制度などについて学び今後にも備えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や解約時には、文章とともに十分な説明を行い、要望や意見、疑問点はないかを聞き、理解、納得していただけるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に意見や要望などを聞いたり、運営推進会議では利用者家族が地域の方や行政等と意見の交換ができる場を設けている。また、利用者とは日々の会話の中で要望、意見を引き出し業務に役立てている。	面会時に家族の意見や要望を聞くようにし、内容を業務日誌に記入し職員間で共有している。運営推進会議で家族等の意見や要望聞き、その内容を職員間で共有し事業所の運営に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常の引き継ぎやミーティング等を通して、職員の意見を聞き、処遇の改善などより良い施設の在り方、運営について話し合っている。	引き継ぎやミーティング等で職員の意見や提案を聞いている。意見や要望については引き継ぎノートや日報に必ず記入するようにしている。また、年2回、全職員で職員会議を開催し意見・要望を聞いている。	管理者と職員の個別面談の機会を年1回程度持ち、職員の意見や要望を直接聞き、処遇改善や職員の資質向上に繋げて欲しい。職員会議の回数は、支援の向上に活かせる様月一回程度の開催が望まれる。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得により給与に反映させている。また、安全衛生委員会を設置し就業環境の整備をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修は月1回、また、施設外への研修にも参加し、その内容を他の職員に報告し、サービスの質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス協議会において、情報交換。交流を通じて自らのケアの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談や申請時には十分な話し合いに応じ、不安なことや要望を聞き、良い関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設の見学をしてもらったり、契約時に話し合いを持ち、信頼関係が築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話し合いの中から要望や意見を聞き、広い知識と視野を持ち、他のサービスも含め優先すべき課題やサービスの対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日中夜間と暮らしを共にしているので、介護する側・される側ではなく、家族同様の関係ができています。また、生活の中から一人ひとりに応じた役割分担をし、生き甲斐を持って生活が送れるよう支援しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話連絡時には家族に日々の様子を伝え、家族からは要望などを聞くなど本人の情報を共有しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会者が来訪しやすいように、普段からの関係作りに努めています。また、家族の協力を得て、親戚の集まりに出かけたり、馴染みの場所に外出できるように支援しています。	家族が面会しやすい関係づくりをしており、家族の協力で外泊時や外出時に墓参り等馴染みの場所に行っている。ケアハウスやグループホーム利用者の面会もあり、関係継続について支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	自然と集まりやすいようなテーブルやソファの配置をしている。また、一人ひとりの性格を把握した上で話を傾聴し、人間関係がスムーズにいくよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	該当はなかったが、要請があれば相談に応じる体制を整えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で、本人の言葉や行動、性格などから要望や意向を拾い出し、毎日の引き継ぎやミーティングで職員間で共有し、意向に沿った支援ができるように努めている。	利用者との会話や表情や行動から、一人ひとりの思いや意向を把握し情報シートに記入、職員間で情報を共有し支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴などを本人や家族から聞いたり、入所前情報を居宅介護支援事業所の担当ケアマネから得るなどして、一人ひとりの暮らしを把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録や引き継ぎなどで把握している。また、看護師と連携を図り体調や精神状態を観察し、一人ひとりに合った生活の支援をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングでは担当者をきめ、より深く本人の状態を把握するとともに、本人・家族・職員の意見を聞き、課題やケアについて話し合い、介護計画を作成している。	担当者が3か月毎に、長期・短期目標に基づく支援内容の実施状況を項目毎にモニタリングし、見直しを実施している。計画作成者が担当職員の意見を聞いて、家族や関係者の意見を参考に、見直し後の介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事・排泄・バイタル等を日誌や個別記録に記入し、日々の引き継ぎ等で職員間で情報を共有して、現状の把握に努め、個別ケアの充実を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の多様なニーズに対応できるよう職員の専門性を高めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	園芸・散髪ボランティアの協力や消防署員の参加による防災訓練を実施している。地域交流ホールでの慰問では地域の方や民生委員の協力も得ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	看護師・主治医、各診療科目での協力医療機関との連携を図りながら、日常の健康管理を行っている。医療機関の受診には家族に同行してもらうこともある。	協力医が特養の主治医で、月に1回の診察を受けている。また、デイサービスの看護師や医療機関との連携を図りながら健康管理を行っている。専門医の受診は職員が同行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々看護師に報告・相談し、連携を図り、日常の健康管理と医療的な処置、緊急時対応もやっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には医療機関と連携を取り、情報交換や相談を行い、入退院支援に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の希望を事前に聞いている。また、看取りの指針を定め全員で共有し、主治医・看護師・協力医療機関と連携をとりながら支援している。	重度化した場合は本人や家族の希望を事前に聞いている。看取り介護に関する指針や看取り介護マニュアルが有り、職員間で共有している。主治医・看護師・医療機関と連携を取り支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故防止対策委員会を中心に、事故の予防・対応を職員に周知している。また、急変時には看護師と連絡がとれる体制が整っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の消防署の協力を得て、年2回の防災・避難訓練を行っている。また、事業所独自の避難訓練を行い職員全員が手順を確認できるような機会を設けている。	年2回消防署の協力により、法人全体の合同防災・避難訓練を実施している。事業所独自の避難訓練も実施し、職員全員が災害に対応出来る確認の機会にしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを尊重する心を忘れずにその方に合った親しさの中にも礼儀をもった声掛けを心がけている。また、居室の入退室、トイレ誘導の際には、扉の開け閉めに注意している。	利用者の立場で声掛けや誘導をしている。入退室時、トイレ誘導時、入浴時等のプライバシーの確保に配慮している。尚、契約時に「個人情報使用同意書」を交わしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いを傾聴したり、表情や行動から思いをくみ取るようにしている。また、希望をあらわしにくい場合には選択肢を示すなどの工夫をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの思いを大切にし、食事や起床・就寝や入浴など本人のペースに合わせられるように配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪ボランティアを利用したり、これまで着ていた衣類を家族に持参してもらったりして、それぞれの好みに合わせ、服装や身だしなみに気をつけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	認知症の進行と重度化により日々の食事作りは困難になったが、畑で収穫された野菜を使ったおやつを一緒に作ったり、季節を感じる行事食などで食への関心や楽しみにつなげている。	利用者の一部で出来る方は、盛り付けや配膳・下膳、食器洗い等を手伝っている。事業所の畑で収穫した野菜で利用者と一緒におやつ作りをしたり、季節感のある行事食を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量を記録している。身体状況に応じて食事の形態を変え、摂取しやすいように工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨き・うがい・または水分を摂るなど、本人の状態に合わせた方法で行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄時間を表に記入し、排泄のリズムを把握し、パターンや行動、仕草などから誘導や介助を行っている。	排泄記録表で利用者の排泄リズムやパターンを把握し、声掛けをしながら利用者にあった支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事を摂取しやすい形状にしたり、コーヒーなど味に変化を持たせる工夫で水分摂取に努めている。家事やレクリエーションで体を動かす機会を確保している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの体調やペースに合わせ、看護師と連携を取りながら、シャワー浴、清拭等を行い清潔保持に努めている。また、気のあった仲間と一緒に入浴できるように順番を工夫している。	週に2回、午前中に入浴支援をしている。希望時間を聞いての入浴や、浴槽が広いので気の合った仲間と一緒に入浴している利用者もいる。一般浴が困難な場合は2階の特養の機械浴が利用出来るようになっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室にはそれぞれベッドがあり、いつでも自由に休める。また、フロアに長椅子やソファを配置してあり、好みの場所で休息できるように配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方箋をファイルに綴じ、服薬内容について十分理解し、服薬確認・管理は看護師の指示の元、行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴・趣味を把握し、また、日々の会話の中で楽しみを見出し、気分転換を図りながら生活できるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域行事への参加の他、周辺の散歩や庭での昼食や喫茶などを行ったりしている。また、家族の協力も得て外出の機会もある。	地域の七夕会・クリスマス会に参加したり、地区文化祭に出展した作品の見学に出掛けたりしている。また、法人のリフト車で季節の花見に行ったり、事業所周辺の散歩や庭での喫茶を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の大部分は認知症の進行により、金銭を直接扱う事は難しくなっているが、お金を所持している人については、希望があれば買い物に同行する体制は整えている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話のやり取りは難しく、また、希望もない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	緑に囲まれた環境にあり、室内は明るく外の景色を見る事ができる。空調管理をし、常に快適に過ごせるよう配慮している。玄関には季節の花を飾ったり、毎月壁面の作品を変え、季節感を取り入れる工夫をしている。	緑豊かな自然環境で、庭の草花や畑の野菜で四季を感じ取れる。居間・食堂・廊下がとても広く取っており、採光も良い。廊下に椅子やソファが置いてあり、ゆっくり寛げるように配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室で自由に過ごすことができる。また、ソファや椅子をあちこちに配置し、気の合った利用者同士が思い思いの場所でくつろげるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	これまで使っていた家具を置いたり、写真や好みの置物などで飾り付けをするなど、安全面に配慮した心地よい空間作りに努めている。	エアコン、トイレ、洗面台ベット、筆筒、テーブルが設置されており、使いなれた家具、写真、人形等が飾ってある。西側は日除けのすだれがある。居室はとても広くて安全面も充分配慮してある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物はバリアフリーで、車椅子や歩行器などでも移動しやすく、安全に生活できる場となっている。また、居室の名札、トイレなどの表示をして自立した生活を支援している。		